

金美齡氏 講演会

上関 未来通信

豊かな町を原電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.13
通算329号

発行 平成26年6月5日

「いま、日本に対して思うこと」

3月18日、柳井商工会議所と中国地域エネルギーフォーラム主催の「エネルギー講演会」が開催されました。講師はテレビなどでもおなじみの評論家、金美齡氏。同氏はエネルギー問題、原子力事情にも詳しく、講演では日本の原子力問題についてもわかりやすく語られました。ここでは講演内容のうち、とくに山口県関連や原子力関連の内容部分を要約して掲載します。

政治家は先見性が必要

私は以前、テレビ番組で共演した作家の百田直樹さんから「まるで妖怪のようだ」と言われたことがあり、「昭和の妖怪」と称された、田布施町出身の元総理大臣・岸信介さんと同列に扱われたことを、心から喜んでる(笑)。

台湾から来日した私は、大学3年の時に岸元総理の通訳を務めた。安保闘争が盛んな時代で、当時のマスコミからひどい扱いを

されていた岸元総理であったが、実際にお会いしてみると50年先、100年先が見通せる本物の政治家だった。

総理引退後に何度も台湾に渡り、中華民国の旗を降ろし台湾として国連に加盟するよう蒋介石を説得したがうまくいかなかった。その結果、未だ台湾は国際的に国家として認められることなく、今でも台湾と日本は正式な国交を結んでいないことが大変残念だ。

台湾人のほとんどは親日家。東日本大震災の後、台湾からは200億円もの義援金が日本に送られたが、この額は群を抜いていた。また日本は、石油資源のほとんど(9割)を中東

安易に脱原発を語るのは無責任

私は岸元総理の血縁である安倍晋三さんが総理になったことをとても喜んでいる。その安倍総理は原子力発電に前向きな立場。

それに対し、先般、元総理の小泉純一郎氏が原子力発電の即時撤廃発言をして話題になった。同じく「脱原発」を訴えて都知事選に出た元総

原子力発電は日本が守るべき最高峰の技術!!

築きあげてきた技術が豊かな暮らしを支える

以前、対談した作家の曾野綾子さんは「電気のないところに民主主義は育たない」とはっきり言われた。曾野さんは作家活動の一方、長年にわたってアフリカなど海外での支援活動に積極的に取り組んでこられ、その経験からか偽善が一切嫌いな人。

「この生活を続けたい」、その一方で「脱原発」と言っているのは、まったくの矛盾であり偽善である。もちろん福島での事故に誰もがショックを受けたが、福島の復興にはお金も電気も必要。そのためには日本経済がしっかりと発展しなければならぬ。復興のために何を選択していかばいいかを皆が真剣に考えていく必要がある。

現場の努力、対応に感動

私は、先日、静岡県にある中部電力の浜岡原子力発電所に行ってきた。今、停止中の浜岡原子力発電所に代わって火力発電所をフル活用してい

理の細川護熙氏もマスコミは大きく取り上げたが、結果は惨敗。

これは細川・小泉両氏が振りかざした「原発ゼロ」か「原発推進」か、という「オール・オア・ナッシング」の問いに対し、都民が「現実的ではない、そんな単純な問題ではない」と判断した結果と思っている。今すぐ「脱原発」などできるはずがない。

東京が日本で一番電気を使っているのに、日本経済が破綻するのがわかっていて「脱原発」を訴える元首相らの発言はあまりに無責任だ。世の中には、原則と例外があることをわきまえなければならず、短絡

築きあげてきた技術が豊かな暮らしを支える

るため、中部電力では年間3千億円も余計に燃料費がかかっているとのこと。そこで見せてもらったビデオは文系出身の私にもわかる内容で、事故が起こった後の安全対策もわかりやすく説明されていた。

巨大な防波壁も実際に見学した。そこでは何人かの技術者が私を待っていてくれ、丁寧に説明していただいた。苦心しながらも懸命に努力しているとの話にジーンとした。世の中からこれだけバッシングを受けても、現場では「安全で安い電気を作ろう」と頑張っている人がいることに。

世界に誇る技術と精神

私は無宗教で自分の判断や直感を大切にしているが「神をおそれ、人をおそれよ」という言葉はいつも意識している。神とは自然のこと。だから何が起るか分からない。しかし、それを事前に何とか防ごうとするのが人間であり、その努力に対し「一

的に「オール・オア・ナッシング」という判断をしてはならない。何事もバランスが大切だ。

私たちの生活は高いレベルにあり、もはや昔の生活には戻れない。だからこそ、今の生活を支えている電気や水などを大切にしなければならぬ。にもかかわらず、福島第一原子力発電所で起こった事故をきっかけに「脱原発」を叫び、ライフラインを支えている人たちが悪者になっている。私たちが今の生活をエンジョイできるのは、日本の技術者が営々とつくり上げてきたおかげであることを忘れてはいけない。

「何が起るか分からない」を理由に原子力発電所が必要ないとするならば、電気のない無人島に住むのと同じことではないか。



日本はこれから何で世界と勝負するのか。それはよその国には真似できない日本人の技術や勤勉さだ。日本人のメンタリテイやものづくりの精神、これこそが日本の守るべきもの。今後も安倍総理のトップセールスを通じて日本の強いものをどんどん売っていくべきだ。それが原子力発電所であり、新幹線や水などである。高い技術力を必要とする原子力発電は、それらの頂点にあるものだと私は考えている。

第47回 日本原子力産業協会 年次大会

風評に流されず、正しい判断を

これまででは火力発電はCO2を垂れ流す悪者だったが、今は火力があればよいと言う。

日本人は何かあると、右か左か極端に振れる。しかし、肝心な時に「YES」か「NO」が言えない。メディアという風に流され、正しい判断ができない人があまりにも多すぎる。どうすれば安全に使えるかと考えることが、日本人の役割である。

青壮協 参加レポート

原子力発電の必要性を再認識

一般社団法人日本原子力産業協会（JAIF）による『第47回 原産年次大会』が4月15日と16日の2日間の日程で開催され、また翌日の4月17日には『第9回 JAIF地域ネットワーク意見交換会』も実施されました。

2日間の大会では、各国からの出席者も迎え、原子力に関する様々なテーマについての講演やパネルディスカッションを展開。どの国の方々も共通して言われていたのは「地球規模の環境影響を考えた場合、今は原子力が必要不可欠である」ということと「太陽光や風力等の再生可能エネルギーは、引き続き、ベースロード電源の供給量に大きく貢献することはない」ということでした。

「2050年の原子力」というテーマでは、原油、天然ガスの輸出国であるナイジェリアで原子力発電所の建設計画があることについて議論され、国内で高まる電力需要に対して、ガス火力発電への依存が急速に高まっ

私たちは、今の生活が誰のおかげかを意識し、敬意と感謝を持たなければいけない。大切なことは何かを常に考えて生きること。もちろん、私たち一人一人が日本を支えている。「私が日本であり、日本が私だ」という意識もあわせて持つて欲しい。

政治家は地域がつくるもの。岸信介さんをはじめ、現外務副大臣の岸信夫さんを出したこの地域は素晴らしい。この地域のみなさんは、きつと正しい判断ができると信じている。

できている現状が報告されるとともに「天然資源はあくまでも有限」との認識や「将来的な環境悪化と地球温暖化防止を考えると、アフリカ大陸の資源国ですら原子力発電が必要」との話がありました。

立地・計画地域で意見交換

『地域ネットワーク意見交換会』では、全国各地の原子力立地地域で積極的に活動されている方々が一同に会し、各地での活動報告が行なわれました。

我々青壮協からは、上関町の現状や昨年実施した松江エネルギー研究会との意見交換会などの活動を紹介。新聞報道等では

取り上げられていない各地での状況を聞くと同時に、数少ない計画地点である上関町を全国に発信することもできた、大変有意義な意見交換会となりました。



意見交換会で発言する上関町からの参加者

ことし4月、わが国のエネルギー需給に関する基本的方針や長期的な施策等をまとめた「エネルギー基本計画」が閣議決定されました。

今回の計画では、原子力発電所の新増設について明記はされませんが、原子力発電は「重要なベースロード電源」と位置づけられ、安全性が確認された発電所を再稼働させるとしています。



藤井代表/当会は、前政権の「原発ゼロ」が大きく転換し、より現実的で冷静な計画となったと受け止めています。確かに新増設の記載はなかったようですが、原子力の重要性はきちんと評価されているようです。やはり、日本の将来を考えると早晩「原子力」を含むバランスのとれた電源構成が必要であると明確に示されるのではないのでしょうか。

吉富所長/当社としては、上関原子力発電所の重要性や位置付けに変わりはないと考えており、引き続き公有水面埋立免許の審査対応や、より多くの方にご理解いただくための活動に最大限取り組みまいります。

上関を知ってもらう機会に

大会を通じて、日本に「なぜ原子力が必要なのか」ということを改めて考えるために、放射線についての基礎知識はもちろん、日本が資源小国であること、オイルショックの経験等をもう一度学ぶこと、またそれを次の世代にもしっかり伝えていくことも必要ではと思いました。

意見交換会では、「福島復興のために、全国の原子力発電所の再稼働は必要」等の意見もあり、多くの参加者の様々な思いに触れることができました。また、上関を全国の方々に知っていただく良い機会にもなり、他地域の方々から「是非、上関に行ってみたい！」という嬉しい声も。その中には、講師として来町いただき、勉強会や講演会が開催できるような話もあり、現在、具体的に検討しているところです。



降、放射線について取り沙汰されていませんが、何事においてもまずは「判断するため」の基本的な知識をあらためて学ぶことが必要だと感じ、今後の活動に活かしていきたいと思っております。

正しい知識を学びたい

原産年次大会の「川内村の帰還に向けた取り組みと課題」の講演の中で、「帰還を押し付けるのではなく、帰還の判断をする材料を提供すべき」との話がありました。福島第一原子力発電所の事故以降、放射線について取り沙汰されていませんが、何事においてもまずは「判断するため」の基本的な知識をあらためて学ぶことが必要だと感じ、今後の活動に活かしていきたいと思っております。

● 今回の講演会で金美齢氏は、エネルギーの大切さ、日本の技術の素晴らしさ、その英知の結集が原子力発電だと説かれました。私たちにとって力強いエネルギーだと感じました。● 「エネルギー基本計画」には、原子力発電の重要性が明記されました。残念ながら新増設については記載されませんが、近い将来、必ず議論されるはず。● 私たちは、上関原子力発電所の建設実現に向け、正しい知識を身に付けておくことが大切です。● 情報発信者として、青壮協の若い人たちの活動に大いに期待しています。● 4月4日、「上関海峡」が上関町初の道の駅に認定されました。オープンが待ち遠しく、とても期待しています。(K)

後記